

渡邊 真由美 (WATANABE Mayumi)

研究員、博士 (生物資源科学)

2012年 民間企業勤め (2022年3月まで)

2022年 農村工学研究部門 資源利用研究領域  
地域資源利用・管理グループ



似顔絵

©わたなべ

## 研究者の横顔

### <仕事の話>

2022年4月より、農研機構に所属しています。こちらでは、農業分野における脱炭素実現に向けた政策策定支援ツールの開発、脱炭素につながる農法が農家や消費者に受け入れられるための諸条件や農山村におけるエネルギー需要構造について把握すべく仕事に取り組んでいます。

私が所属するグループは、農山村の実態や先導的な取組、実証試験の経過を把握するためにフィールドワークがとても多いです。といいつつも、私はグループの中において出張の少ない人間ですが…。先日、環境保全型農業直接支払交付金における長期中干しの実施面積が多い秋田県大湯村へ調査に行きました。同一村内においても、農業者によって長期中干しに対する評価、実施時のポイント等に違いがありました。百聞は一見に如かず。分からないことは数多く、常に勉強です。

### <子育てと仕事と>

本コーナーの趣旨に沿って、今回は2つほどプライベートな情報を公開したいと思います。1つは秋田で生まれ育ったこと、もう1つは未就学児の母親であることです。

先日の出張では我が子も一緒に秋田入りしました。秋田駅前の子育て支援センターには託児サービスがあり、何度かお世話になっています。我が子はその子育て支援センターがお気に入り、遊びに行ったらなかなか帰りません。また、私の主たる調査フィールドである栃木県那須塩原市には農研機構が契約している民間託児所があり、1度だけ子連れ出張の際に利用しました。そちらの託児所も我が子は気に入ったようで、「また行きたい」と言っています。

はじめて足を運ぶ地域へ子連れ出張する際は、その地域で利用できる託児サービスを探すことから始まります。これはちょっとした一仕事です。また、民間のベビーシッターを1日お願いしようとするとそれなりにお値段が高いため、我が家の台所事情を考えると頻繁には利用できません。

所属する組織のサポートや地域の子育て支援サービスのおかげで、試行錯誤しつつも、時々決行する子連れ出張が成り立っています。感謝ですね。もちろん家族にも感謝です。特に我が子へ、母親である私の仕事に付き合ってくれて、存在してくれて「ありがとう」。

### <記録的な大雨に見舞われた故郷・秋田へ>

先日の秋田県調査は大雨と重なり、帰り道の新幹線が運休しました。大雨の合間を縫ってつくばに帰ってきましたが、その後も秋田では災害級の大雨が続き、調査でお世話になった方や友人、知人が被災しました。今、SNSをみると秋田に所縁のある友人や知人が復旧に向けて動いている様子が伺えます。私にできることは限られていて、それはとてもささやかですが、できることはします。

では、また。つくばより愛を込めて。